

研究課題名	B型肝炎の治療に向けたB型肝炎ウイルスに対する抗ウイルス抑制因子APOBEC3の影響についての検討
所属(診療科等)	長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 消化器病態学研究グループ
研究責任者(職名)	中野 雄介 (研究員)
研究期間	承認日 ~ 2025年 12月 31日
研究目的と意義	本研究の目的は、臨床検体を用いてヒトが発現する抗ウイルス抑制因子APOBEC3(A3)がB型肝炎ウイルス(HBV)に与える影響を明らかにすることです。培養細胞などを用いた研究ではA3によるHBV増殖抑制機能が示唆されていますが、HBV感染患者さんの中でA3がどの程度の機能を発揮しているのかは分かっていません。臨床でのHBVとA3の関係が解明できれば、A3の抗ウイルス抑制機能を用いたB型慢性肝炎の新たな治療法の考案に繋がると考えています。
研究内容	●対象となる患者さん
	2014年4月1日から2019年11月30日までに、当院においてB型慢性肝炎と診断され、かつ診断目的で採取された残余血清が2回以上保存されている患者さん
	●利用する情報
	<ul style="list-style-type: none"> ・患者背景：診断名，年齢，性別，身長，体重，合併症，既往歴，肝炎治療歴，肝癌治療歴，肝生検病理所見，内服薬情報，肝不全症状の有無 ・内服薬情報（薬剤名、用法用量、服薬期間） ・ウイルス学的検査：HBV/HCV/HIV/HTLV-1感染歴，HBV-DNA量，HBVゲノム配列
研究内容	●研究方法
	<p>上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時系列のHBVゲノム配列解読及びそれらの比較によるA3由来の変異蓄積の検討 ・HBVゲノム中に蓄積しているA3由来の変異が、ウイルスのどの遺伝子領域に蓄積し、さらにその変異蓄積によりどのような影響をウイルスに与えているのかを検討 ・患者背景、治療内容、ウイルス学的検査の情報より、A3由来の変異蓄積に差異があるのかを検討 <p>本研究では診断で用いた血清の余りを用いてHBVの遺伝子情報の解析を行います。その解析の際は、HBVの遺伝子配列のみを取り扱いますので、ヒトゲノム情報といった患者さん個人の遺伝情報を取り扱うことはありません。</p>
問い合わせ先	<p>所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター</p> <p>住所：長崎市新地町6番39号</p> <p>電話：095(822)3251 (内線4122)</p> <p>受付時間：月～金 9:00～17:00 (祝・祭日を除く)</p>